

教科指導力高度化演習（基礎・発展）の全体会の授業改善

保健体育・日野克博

1. 授業の目的

本授業（教科指導力高度化演習）は，教職大学院・教科領域コースの院1年生が履修する科目である。前期は教科指導力高度化演習・基礎，後期は教科指導力高度化演習・発展になっており，つながりをもたせながら内容を構成している。また，教科領域コースの院1年生全員が履修することから，一部ホームルーム的な内容も含んで実施している。

この授業では，教材解釈，教材構成，授業構成，学習指導立案において，担当教員を中心としながら，教科専門と教科教育の教員の協力を得て，教育内容と教育方法の統合を踏まえた研究的な教科指導力の基礎・発展を学習する。さらに，教育現場等の実践視察を複数回行い，教師の指導と児童生徒の学びの姿から教科指導や授業研究の手法を習得し，研究的な実践能力の向上を図ることになっている。

この授業の目的は，次の2点である。

- 教科専門と教科教育の教員の協力を得て，教育内容と教育方法の融合による研究的な実践力を身に付ける
- 教育現場等のフィールドを積極的に活用して，高度な実践的な教育の方法及び技術を用いる実践力を育成する

2. 授業の特徴

この授業では，次のような特徴をもたせている。

*実践的・研究的な実践能力の育成

学習指導の計画，実践，省察，改善において，担当教員を中心としながら，教科専門と教科教育の教員の協力を得て，実践における教育の方法及び技術の手法を習得し，研究的な実践能力の育成をはかる。

*教科をこえた意見交換

教科の独自性と学習の共通性を理解するとともに多様な教育の方法や技術のあり方を認識する。

*教科領域コース報告会

当該教科等の取り組みを報告するとともに，他教科等の報告から，当該教科等の取り組みを省察する。

3. 授業の展開

この授業は，受講生全員が参加する全体会と教科別実施する教科別授業で構成している。全体会は，前期・後期のはじめ，月ごとに1回，前期・後期の最後に報告会を実施する。表1，2は，今年度のスケジュールである。

表1. 教科指導力高度化演習・基礎（前期）

	Date	Topic	
1	4.12	全体会：ガイダンス	多目的講義室
2	4.19	全体会：コミュニケーション・ワーク	第1体育館
3	4.26	教科別授業	各教科の担当者と相談
4	5.10		
5	5.17		
6	5.24		
7	5.31	全体会：ディスカッション	多目的講義室
8	6.7	教科別授業	各教科の担当者と相談
9	6.14		
10	6.21		
11	6.28	全体会：ディスカッション	多目的講義室
12	7.5	教科別授業	各教科の担当者と相談
13	7.12		
14	7.19	全体会：中間報告①	多目的講義室
15	7.26	全体会：中間報告②	多目的講義室

表2. 教科指導力高度化演習・発展（後期）

	Date	Topic	備考
1	10.4	全体会：ガイダンス（実習報告ほか）	402教室
2	10.11	教科別授業	各教科の担当者と要相談
3	10.18		
4	10.25		
5	11.1	全体会：教科教育学会をふりかえる —教科教育の学び—	402教室
6	11.8	教科別授業	各教科の担当者と要相談
7	11.22		
8	11.29		
9	12.6	全体会：授業づくりの本質 (山本浅幸先生)	402教室
10	12.13	教科別授業	各教科の担当者と要相談
11	12.20		
12	1.17		
13	1.24	全体会：最終報告①	402教室
14	1.31	全体会：最終報告②	402教室
15	2.7	締括	各教科の担当者と要相談

全体会で実施した主な内容は、以下のとおりである。

○前期

<第1回(4月12日):ガイダンス>

授業のねらいやスケジュールの確認, 自己紹介, コミュニケーションワークを実施した。

<第2回(4月19日):コミュニケーション>

教科領域コースのまとめりや所属感を高めるために, 軽スポーツ(ボッチャ, モルック)を実施した。

<第7回(5月31日):ディスカッション>

連携校実習がスタートした状況を受け, 各自の実習の状況を報告するとともに, 悩みや課題を共有し, 意見交換を行った。

<第11回(6月28日):ディスカッション>

課題研究のテーマや進捗状況を共有するとともに, 研究を進めるうえでの手続きや配慮事項を共有し, 意見交換を行った。

<第14・15回(7月19, 26日):中間報告>

教科別に前期の取組について発表し, 質疑応答を行った。

○後期

<第1回(10月4日):夏季休業中の学び報告>

夏季休業中の実習, 集中授業, 教育体験活動など, 各自の学びや経験等を報告し, 意見交換を行った。

<第5回(11月1日):教科教育の学び>

愛媛大学で開催された日本教科教育学会のふりかえりと教科教育の学びについて共有した。

<第9回(12月6日):授業づくりの本質>

山本浅幸特定教授から授業づくりや教材開発の演習を受け, 授業づくりの本質について考察し, 意見交換を行った。

<第13・14回(1月24, 31日):最終報告>

教科別に前期・後期の取組について最終発表し, 質疑応答を行った。

全体会以外は, 教科別授業として各教科に分かれて, テーマにそった授業を行った。

4. 学生アンケート

最終報告会の終了後, 1年間の学びを振り返るとともに, 授業改善にかかわって学生にアンケートを実施した。

院生からは, 以下のような回答がえられた。

Q1. 教職大学院, 教科領域コースについて

- ・教科領域コースは自分の教科を深めることができ、非常に質の高い学びができて、とても良いと思う。実習校と大学での授業で学んだことをつなげることで理論と実践の往還をすることができ、非常に有意義な時間を過ごさせてもらった。
- ・専門的に学ぶことができ、良い。実習が多く大変な一面もあるが現場に出る前に多くを学ぶことができている。講義で学んだことを実習ですぐに実践できるのが良い。
- ・教育学部出身ではなかったため、教育全般のこと、学級経営、授業のことについて、深く学習することができたと思います。また実習を通じて実践力も育成することができたと思います。
- ・個人的な意見ですが、私は教科について学び、実践力をつけたいと考えていたので、教科領域コースに進学することができて良かったと感じています。
- ・教科を越えた学びの場の設定には賛成です。一方で、教科ごとの学びから研究や授業のヒントやネタが生じたことは間違いありません。研究や授業実践など、実生活と繋がる題材をテーマとすることができれば、学生にとって有意義な時間になると考えます。
- ・常に何か(課題や実践・実習・実験、研究)を抱えている状態で、忙しくていつも疲れています。
- ・自身の経験や専門性を高めることができ、教員としての力をつけられている気はする。
- ・自身の専門性の教育感を深めることができ、自身の知識の幅を増やすことができている。
- ・教科の授業で学んだ実験方法や授業展開を活かすことはできている。しかし、まだそれ以外の教職教養の方は生かす場面に出会っていない。

Q2. 全体会の内容, 回数について

- ・内容、回数については今のままでいいと思う
- ・全体会の回数は丁度良い
- ・全体会の回数は、月1回程度でちょうどよかったです
- ・月1回程度で、良いかもしれないが、もっと他教科のことを知りたい気持ちもある。全大会の内容は各教科でどのような実践をしているのか知ることができるため、非常に有意義だと思います。最初の方にすでに実践を始めている同級生もいて、自分は進んでいないため焦って不

安になることもありました。特にボッチャなどの体を動かす全体会はとても楽しく、気持ちよかったです。教科別の活動がたくさんあるので、日数を増やして、例えば2月間に1回、そういった体ほぐし運動を朝からやってみてもいいかもしれないと思いました。実践報告の全体会の回数はちょうどよいと思いました。次の実践が終わったところに報告といった形になっていたので、実践報告の間の期間は今が適切だと思います。

- ・回数はまだもう少し多くてもいいと思う。内容は今のままで大丈夫だと思う。

Q3. 教科横断的テーマでの実施について

- ・教科横断的なテーマですること、他の教科についても知ることができて、大変かもしれないが、とても有意義な学習になると思う。
- ・教科横断的なグループ分けは面白そうだが、自分の専門性が求められて大変そうに思えるところもある。社会科と数学等、一見関連のあまり無さそうな教科でのチームは研究の価値があると思う。
- ・グループ分けについてですが、個人的には、教科別で学習するほうが良いと思いました。
- ・教科横断的なグループ分けも面白いとは思いますが、どうしてもメインの教科の人に頼ってしまいそう（知識の差がある）。また、時間的な都合もあり、合わせるのが難しそうなイメージ。
- ・非常に面白い発表ができるのではないかと思います。あるグループは国語2人・数学2人・音楽1人で一つの授業を創ります、またあるグループでは理科1人・社会2人・美術2人で別の授業を創って全体会で発表し合うみたいな取り組みが新たな教科横断的な発見があるかもしれないとおもいます。一方で教科別の人たちとグループを組んで授業を創ることは内容もスケジュールも難しいと思うので授業案の発表だけにする方法もあるのかなと思います。
- ・他の強化と組み合わせるような割り当てにするべきだと思う。近くの人だと教科で固まってしまふ。

Q4. 教科別授業について

- ・社会科の内容では絵本を使った授業開発を行っているが、教材研究や授業実践の能力を高めることができていると思う。

- ・教科別の授業回では、評価の付け方（テスト）等を中心に学習をしました。大学院の授業では、理論系のこと（第二言語習得、英語学、音声学）について学ぶ授業はありますが、授業全般（指導のことや評価のこと）について学ぶ授業はありませんでした。ですので、この火曜1限の授業で、授業のこと（主に評価）について、事例とともに学ぶことができました。
- ・課題研究とほとんど被る部分がなく、別の授業を受けている感覚。しかし、内容が被っていないために、多くの学びがある。
- ・教科別の活動では実践に使う教材の開発や授業案の作成、外部授業などの準備に使っていました。この時間を使って準備して、休日に実践に行き、この授業で報告するという風に活用していましたので、この授業を単体で見たとき活動の一貫性があるので良かった。研究とは全く関係のない実践の準備をしていたので課題研究との違いについては分かりません。
- ・今のままでそれぞれの特色があり、いいと思う。

5. まとめ

教科領域コースは、教科の独自性や教科ごとに授業科目が設定されていることから、教科領域コースとしてのまとめや学生間の交流が課題になっていた。昨年度までは、コロナ禍の影響で全体会を実施する機会が少なくなっていた。この授業は、コース別科目のなかで唯一、教科領域コースの院1年生全員が受講する科目である。そのことを踏まえ、今年度は、定期的に全体会を実施した。

学生のアンケート（自由記述）からは、教科領域コースの学び、教科指導力高度化演習の内容や回数等において、概ね肯定的な意見が寄せられた。カリキュラムにおける本授業の位置づけや特徴をいかし、次年度も全体会の内容を充実させていきたい。

また、コース別科目では教科別の学びが多いことから、この授業で教科横断的なテーマで実施する案について意見を求めた。興味・関心をもつ肯定的な意見が多かったものの、教科の組合せや話し合う時間の確保、他の授業への影響など検討すべき点について指摘もあった。

次年度は、この授業の受講生が大幅に増える予定である。そのことも想定しながら、今年度の取組や学生の声を参考に、より充実した内容になるように、教員間での連携も密にとりながら、授業改善に努めていきたい。